

<b>令和元年度 社会福祉法人の地域貢献に係る地域協議会【会議記録】</b>	
<b>日 時</b>	日時：令和元年6月3日（月）10時00分～12時00分
<b>開催場所</b>	横浜市健康福祉総合センター 8階 大会議室8AB
<b>出席者</b>	委員：青木委員、生田委員、鈴木委員、中野委員、名和田委員、畑尻委員、山田委員、米岡委員 （8名） 取組報告者：鈴木委員（社会福祉法人 たちばな会理事長）、中嶋光代氏（和泉第一高齢者居場所づくり担い手代表）（ゲストスピーカー）
<b>欠席者</b>	西尾委員
<b>開催形式</b>	公開（傍聴者：22名）
<b>議 題</b>	議事【議事1】平成30年度決算における社会福祉充実計画の策定状況について 【議事2】横浜市内における社会福祉法人・施設の「地域における公益的な取組」実施状況 【議事3】先進事例の報告 【議事4】社会福祉法人・施設の地域貢献活動推進に向けた支援機関の役割
<b>議 事</b>	<p>開会</p> <p>○事務局より本協議会について説明</p> <p>横浜市地域福祉保健計画・横浜市地域福祉保健活動計画検討会のテーマ別検討会という位置づけで実施。市内社会福祉法人の皆様限定し公開。横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員長の名和田委員に、本地域協議会の座長を依頼する。</p> <p><b>【議事1】平成30年度決算における社会福祉充実計画の策定状況について</b></p> <p>（事務局）社会福祉法人は毎会計年度の決算において社会福祉充実残額が生じた場合には、既存事業の充実や新規事業などを実施することとなっています。ほとんどの社会福祉法人について平成30年度決算は未確定となっており、社会福祉充実計画の承認申請は現時点で受理していません。社会福祉充実計画において地域公益事業を実施する場合には、地域の方や関係機関の方に意見を伺うこととなっており、当協議会の役割の一つになっていますが、法人より相談はないため、本日は地域公益事業について意見を伺う議題はありません。</p> <p>（名和田座長）何かご質問ありましたらどうぞ。</p> <p>（一同）特になし</p> <p><b>【議事2】横浜市内における社会福祉法人・施設の「地域における公益的な取組」実施状況</b></p> <p>（事務局）資料1について説明</p> <p>（名和田座長）何かご質問ありましたらどうぞ。</p> <p>（一同）特になし。</p> <p><b>【議事3】先進事例の報告</b></p> <p>（事務局）</p> <p>第4期横浜市地域福祉保健計画では社会福祉法人が地域の課題について、地域の皆様と一緒に取組を進めていくことを方針としています。本日は先進事例をご報告いただき市内で取り組みを</p>

広げていくために、どんなことが必要かを皆様からご意見をいただきたいと考えています。

臨時委員としてお越しの社会福祉法人たちばな会理事長の鈴木啓正様と、地域の立場としてお話しいただくため、ゲストスピーカーとして和泉第一高齢者居場所づくり担い手代表の中嶋光代様にお越しいただき、泉区での取組をお話しいただきます。

(名和田座長) それでは鈴木委員よろしくお願いたします。

(鈴木委員) 横浜市所管法人 266 法人のうちまだ 76 法人しか地域貢献活動を行っていないという報告を聞き大変がっかりしているとともに驚いています。社会福祉法の改正があり、何のために社会福祉法人が非課税法人であるのか何のためにその地域に施設があるのか、本質的な意味を考えたとき、事業以外に地域に信頼されることをしていかなければその地域でやっていけないと感じていました。

社会福祉法人は常に地域の方に借りているものをお返しすることが責務であると考えています。社会福祉法の改正で社会福祉法人が地域貢献事業を行うこととされたことで、社会福祉法人の役割の重要性を改めて知らされたと感じています。過去から自分の私財を投じて事業をされてきた大先輩の方々がいたおかげで今社会福祉法人が残っていますが、今我々に何ができるかと考えたときに、2 年前の法改正をきっかけに何をしようかと横浜市内の各区でも様々な考えが出てきました。

「泉サポートプロジェクト」と名称を出したのはまだ 1 年半前からです。それまでは泉区社会福祉協議会（以下、区社協）の専門機関部会で「社会福祉法人として何をしていくべきか」と投げかけさせていただきました。戸塚区ではオール戸塚ということで戸塚区が社会福祉法人をまとめて地域のためにと行動を始めていました。

私は、社会福祉法人だけが地域のために集まることで良いのかと考えました。地域のために NPO 法人や株式会社であってもその地域に貢献し返していくべきと考え、それを自身の信念として専門機関部会で一緒に貢献活動をしていきませんかと呼びかけました。私どもの法人は 150 床の特別養護老人ホームを経営しており、ショートステイやデイサービスも行っているため、車もあり職員もおります。小さな障害者施設や車もない施設もあります。小さな法人や団体が協力し合って地域の法人も地域貢献をやっていくために一緒に取り組もうと専門機関部会で話し合いました。

そこで 30 を越える施設が賛同し「泉サポートプロジェクト」の前身となる団体ができました。その中で、何が一番必要になるか、区役所・区社協・地域ケアプラザも含めて話し合ったところ、高齢者サロンに行きたいけれども移動手段がなくて行けずに困っているとの意見がありました。泉区は地下鉄も相鉄も通っていますが、バスはあまり通っておらず交通は非常に厳しい地域です。自分でバスに乗り移動できる方がいる一方、外に出る機会も少ない方も多くいます。富士見ヶ丘地区社会福祉協議会（以下、地区社協）の方々と一緒に検討しました。月に 1 回行っているサロンに今まで来られなかった人の送迎を行えないか、と話がありました。本来の施設の事業・業務がある中で貢献活動を行うということは、職員に負担を強いているかもしれません。しかし職員たちも本来は地域の方々のために働く役目があると伝えるとともに、貢献活動ができていることが我々にとって非常に重要なことだと理解してもらい、月 1 回送迎を始めることができました。月 1 回の送迎支援を開始したところ参加者から何十年も会えなかった方に会えたなどご意

見をいただきました。

また、送迎を行ううちに、口コミで広がっていきました。ニーズも多く出てきました。今までも地域貢献活動として各事業や団体で色々なことをやっています。子ども食堂や買い物支援なども行われています。泉サポートプロジェクトでは買い物バスとして地域の野菜の移動販売も始めています。我々の法人では18年前から年5回の家庭介護教室を始め、栄養教室や感染症対策なども実施してきました各事業所も様々なことを行っています。区の協力も得て帽子やジャンパーを作り着用して活動を行うとともに、ステッカーを作り車に貼っています。

泉区内は細長く、広い地域です。戸塚区との境のあたりはバスも少なく道も細い場所が多くあります。地域ケアプラザのエリアによっても住民からのニーズは大きく違いがあります。

ニーズが地域により違う中で、地域ケアプラザの力を借りながら、それぞれのケアプラザが把握したニーズを泉サポートプロジェクトの核となっただけでなく支援活動を進めていける体制づくりをしています。

区社協の1層生活支援コーディネーターと地域ケアプラザの2層生活支援コーディネーターにはとても頑張ってもらっています。地域貢献をしようとしている社会福祉人の意見と、地域の中にある困りごと、地域からのニーズなど、本当に様々な地域からの意見を生活支援コーディネーターが交通整理をしながらうまくつなげてくれています。ケアプラザの皆さんが様々な困りごとの中から泉サポートプロジェクトとしてできることをつなげてもらっています。

ただ、地域貢献は無理をしてやることではないと思っています。花火を上げるわけではありません。この先長く地域貢献を続けていくことで、地域にこの施設が、団体があってよかったと思ってもらえることが大事だと思っています。

さまざまな法人が取組を行っていますが、今後の心配は人手不足です。法人としても今後は地域の中で一緒に活動していってもらえる人材がいるかがカギとなると考えています。社会福祉法人だけでは施設だけで完結してしまい、ここまで大きな取組にはならなかったように思います。

地域の方の力を借り、地域ケアプラザの知恵をもらいながらやってきたことでここまで進んできたと思っています。泉区内のどこでも、それぞれの法人団体がサポートプロジェクトのステッカーを付けることで声をかけてもらえると良いと思っています。やっていないと恥ずかしいと思ってもらえるような泉区になっていきたいと思っています。

地域貢献が法改正によりクローズアップされましたが、本来は社会福祉法人が前からやっていたかねばならなかったことをしていなかったのだと強く感じたため、職員の教育を含め、時間をかけて多くの機会です話してきました。現在、横浜市社会福祉協議会（以下、市社協）の高齢福祉部会の部会長をしています。施設には何かやらなければと考える職員さんも理事長さんもたくさんいらっしゃいます。ただ、やりたい気持ちはあっても何からどう取り組んだらよいかわからない法人も多いのが現実です。その場合は多くの仲間とともに話し合い、地に足をつけて長くやっていくのだと長い目で取り組んでいけるとよいと思っています。地域の皆さんとともに、どこの区でも地域貢献についてご協力を頂ければと思います。

中嶋さんよりサロンの状況や泉サポートプロジェクトの内容についてご紹介いただきたいと思います。

（中嶋氏（ゲストスピーカー）） 私たちの高齢者の居場所づくりの活動は12年目となりました。

4、5年目くらいから足腰が弱りサロンに来られない方がでてきました。ボランティアが自分の車で送迎することまではできませんでした。家でお元気にされていて外には出ないという方が多くいました。会場となる自治会館の隣に鈴木委員の施設があったため、送迎をしてもらえないかと相談しました。施設からいつも二人の職員の方が車とともに出てくださることで参加したいという声が上がりました。

80代～90代の方まで参加している中で、車で送迎してもらえることで参加が可能となり、本当に久しぶりに会う方もいて生活に張りが出て、身だしなみを整え外出することを楽しみにしてくださっています。送迎時間も融通をきかせていただけて本当に助かっています。一か所の施設にお願いして負担を増やすより、多くの施設が参加していただければそれだけ負担も減り、また地域も助かります。多くの地域で広がっていくとよいと思っています。

(鈴木委員) 地区社協主催で一人暮らし高齢者の忘年会を私どもの施設を会場に行っていますが、昨年初めて4つの施設が車と運転手を出し合って送迎を行いました。77名の参加者のうち29名の送迎を行い参加いただくことができました。

下和泉地区では、地区施設連絡会を開催しています。地域と施設の連絡会として3か月に1度行っています。ニーズと支援の調整を地区連絡会という小さなエリアで進めています。人が出せないのであれば、施設を使ってもらうこともできると思います。周辺を散歩されている高齢者の方等が、道中トイレがなく困っていると聞いたため施設のトイレを使ってくださいとお知らせもしています。また、デイサービスの送迎をしているときに、切れた電球の交換など困っている方をお手伝いすることは当たり前のことだと職員にも教育しています。そこでお礼を言われたときの気持ちを感じてほしいと思っています。

今後のプロジェクトとしてはケアプラザのエリアで取組を進めていきたいと考えています。また、今地域の中で動いている生活支援コーディネーターが拾い上げたニーズに応え形にしていかなければならないと考えています。

地域作業所・保育所・学校との連携をどうしていくかを検討しています。地域貢献も大事ですが、この取組で連携していることで災害時に助け合いがスムーズにできるのではということも考え、泉サポートネットを作り上げています。一つの支援事業を通じてお隣の施設や会社ともつながりをつくっています。近くの障害者施設で何かあったら天王の森のダイルームを使っていただくことにしています。サポートネットに参加してもらうことでそのような話が自然にできるきっかけになっています。地域に貢献するということは災害時等本当に困ったときの助け合いにつながるのではと考えています。地域貢献に関わる団体・施設を増やしながら災害の対応についても連携を進め、地域の担い手の皆さんと一緒に地域を守っていければと思います。

(名和田座長) 実践に基づく貴重なご報告をいただき、ありがとうございました。ここからは意見交換を進めたいと思います。まず、ご報告に関して、ご質問・ご意見があればどうぞ。

(畑尻委員) 非常に参考になるご報告ありがとうございます。地域によって違うニーズをまとめて取組を行っていることが素晴らしいと感じました。保土ヶ谷区で言えば便利などところにあるマンションに住んでいる方は気にしませんが、山の上に住んでいる高齢者の方は買い物難民となっています。それぞれの人間関係の構築や考え方をまとめることは難しいと感じています。

(鈴木委員) 泉区内も町内会ごとにも考え方含め大きく違いがあります。だからこそ地域ケアプ

ラザを中心に取組を進めたいと考えています。泉区役所の周りは一切送迎のニーズはありません。どこにそのようなニーズがあるかを知る必要があります。様々な地域にそれぞれニーズがある中で、それを聞き取る地域ケアプラザが積み重ねたニーズをもとに、泉サポートプロジェクトとして取り組んでいきたいと思っています。

例えば、現在は引きこもりの方が増えてきています。今後はそのような方が一歩踏みだしていける取組もできたらよいと思っています。

(青木委員) 大変素晴らしい取組だと思います。民生委員は住民の立場でケアプラザなどにつなげる見守り役として活動しています。現在、民生委員活動を行っている中で困っていることは、高齢者の男性の一人暮らし、外国人の方への支援です。結論がなかなかでません。古い地域はお寺など中心になるものがありますが、数十年前に開発された団地では学校しかない。学校を一つのくくりとして考えて活動を展開しています。さらに、活動者も高齢化しているなかで人材を確保していかなければならない。地域の活動者の中心は女性が大半です。今まで関わりのない男性高齢者がこのような活動に参加していくためにどうしたらよいか考えていきたいと思っています。

(中嶋氏 (ゲストスピーカ)) サロンの担い手も高齢化しています。11人が交代で月に2回くらいボランティアを行っています。無理しない範囲で参加してもらっています。ボランティアが責任感だけではなく楽しくできるのであれば、雰囲気も良くなり、やりがいも出て、ボランティアのストレス解消の場にもなると思います。また、サロンを定期的に行うことで見守りとなっています。サロンに来なかった人に声をかけることができます。

(名和田座長) 民生委員さんとの協力連携についてはいかがでしょうか。

(鈴木委員) 民生委員さんとの話し合いも行っています。一番のポイントになってくるのは、サロンなどに出てこれない人をどうしたらよいかということです。また、私達施設はどこにそのような一人暮らしの人がいるか知らないのです。民生委員さんから相談を受けることによって活動につながられることも多くあります。そのような方をつなげてくださる民生委員さんの協力は非常に大きいものです。

(米岡委員) 毎週通えるサロンを12年間も行っていることが高齢者にとってもとても大事なことでありすごいことだと思います。リーダーシップをとって進めてくださる施設の方がいらっしゃる大きなきっかけとなっていると思います。また、施設の車両については以前から地域のイベントの時に使わせてもらえないかと思っていました。とてもいいヒントをいただきました。福祉施設があまりない中ではありますが考えていきたいです。

(鈴木委員) 社会福祉施設は協力することは責務だと思っているためぜひ相談してもらいたいと思います。地区社協が地域の福祉活動の中心となると考えています。何かあれば互いに何ができるか相談し合っています。その話し合いで出てきたものをサポートネットに持ち帰る話をしています。

(山田委員) 子育て支援で送迎を切り口に考えたとき、西区でも担い手が足りない状況です。発達障害のあるお子さんの送迎に学校から見守り送迎をつけてほしいと言われます。通学は6年間毎日のこととなると、子育てサポートでは対応できる人がほぼ見つからない状況です。泉サポートのように同じ地域の方の中で対応でき、顔の見える見守りの中で支えられることが理想だと思います。お母さんが突然の病気で送迎ができないという時、今日の今日と言われると難しいこと

が多くあります。緊急のときなど施設の方も一緒に取り組んでいただけたら本当に心強いなど感じています。多くの施設が理念を共有し取組を進めていることは素晴らしいと思います。

(鈴木委員) 社会福祉法人の運営する保育園であれば「考えてもらえませんか」と相談できると思います。泉サポートでは中学生と赤ちゃんを連れてお母さんとの交流を行っています。また、今お話を聞いて障害のある子の送迎の問題もあることに気が付きましたので持ち帰って話をしたいと思います。子育てをしているお母さんは本当に大変だと思います。お母さんたちの悩みに何か力になればいいなと思っています。

(中野委員) 市民活動支援センターでは地域づくり大学校を4つの区と協働で行っています。各地域から選出された方や、施設の職員の方も参加しています。皆で課題について話し合い、市民発意のアイデアを形にする取組を支援しています。

移動の問題については移動サービス協議会の皆さんが困っている人と手伝える人をつなげています。「あったらいいのに」というサービスについて気づいている人が声を出していけば市でも一緒に考えてくれると思うので、たくさん声を上げていくことが大切だと思います。また、地域で困っている人を助けるための道を見つけるために、貧困家庭の子の学習支援・生活支援を、一軒家を借りて行っています。勉強する姿勢を身につけることや衣類の支援など、穏やかな日常を自分で獲得していくための伴走支援を行っています。そんな時当事者を遠くから見守ってくれる人の寛容な目線のありがたさを感じていました。暮らしやすい街になるといいという思いがあれば道は開けると思います。

(鈴木委員) 見て見ぬふりが一番いけないと思っています。それは地域貢献も含め大事なことだと感じています。

(生田委員) 先日、踊場地域ケアプラザのエリアでも食事会の送迎サポートができないかと近隣の事業所の方と地域の方とで地域ケア会議で話し合いをしました。事業所さんはどこもやる気がある中で、地域の方も地域貢献の機運が高まっています。地域ケアプラザは間に入る施設として、双方の思いをつなげられるように動くコーディネーターの役割もあるので、声をかけていただければと思います。

(名和田座長) 地区別計画が連合エリアで策定されるようになっていますが、このような取組を進めるにあたり地域ケアプラザの圏域が必ずしも連合単位ではないと思いますが、取組を進める中で問題などありますか。

(生田委員) 地域ケアプラザの担当するエリアが1連合のところもあれば複数の連合を担当しているところもあります。取組を進める中で地域ケアプラザの運営協議会など複数地域が集まる会議もあるので、情報を共有しながらうまく進められれば良いと思っています。

(名和田座長) 送迎の問題は切実です。泉区全体がサポートプロジェクトで課題検討・対応できる仕組みになっていることがすごいことだと思います。学校との連携も考えていけるとよいのではと思います。外国籍市民の支援についても急速に課題が増えていく問題でもあり、今後検討が必要だと感じました。

(鈴木委員) 決して先進的な取組ではなく誰でもできることだと思っています。また、課題、疑問に思っていることは声に出して言うことが大事だと思います。地域の人が幸せであれば法人としても幸せだと思っています。本日はありがとうございました。

	<p>(中嶋氏 (ゲストスピーカー)) 子育てサロンなどもやっていたつながりで、中学生との交流も行いました。その際には保育園の先生が送迎をしてくださいました。その場その時に一番いい方をつなげていけるように、声をあげていけるとよいと思います。</p> <p>(名和田座長) 有益なご意見沢山いただきましたので、今後具体的な取組の検討を進めていただきたいと思います。</p> <p><b>【議事 4】 社会福祉法人・施設の地域貢献活動推進に向けた支援機関の役割</b></p> <p>(事務局) 資料 3 について説明</p> <p>(名和田座長) 支援機関である市社協・行政へのご意見などがあればいただきたいと思います。</p> <p>(畑尻委員) 西区のお出かけバスの取組は素晴らしいと思います。保土ヶ谷区でも買い物難民となっている UR などの高齢化の進んだ集合住宅があるため、大手のスーパーに掛け合い送迎バスを週数回行ってもらえるようになりました。それでも行けない人がおり、どうするか話したところ、週 1 回出張販売を行えることになりました。他の地域での取組がヒントとなり、地域に応じた取組ができるきっかけとなると思うので、ぜひ積極的に共有できると良いと思います。</p> <p>(名和田委員) 様々な場面でのコーディネートが必要だと感じました。区をまたいだ場合の支援機関の動きなどについて、市社協の方で何か取組、意見等ありますでしょうか。</p> <p>(事務局) 1 層コーディネーターの集まる会議等で情報交換を行うとともに、企業や関係団体との勉強会などを行っています。それを地域に持ち帰ってもらい、地域に合った取組を検討してもらっています。地域の方にも積極的に情報提供を行っていただければと思います。</p> <p>(名和田座長) 様々な地域で企業等とも連携の取組が始まってきており、そのような情報ももっと地域に流れていくとさらに活動が進んでいくのではと思います。</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>(名和田座長) 本会議の議事録は、発言者の氏名及び発言の要旨をまとめたものを事務局で作成し、横浜市のホームページで公表させていただきます。</p> <p>(事務局) たくさんいただきました貴重なご意見を参考に横浜市と連携しながら地域福祉保健の取組を推進していきたいと思います。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p><b>資 料</b></p> <p>・</p> <p><b>特記事項</b></p>	<p>資料 1 : 横浜市内における社会福祉法人・施設の「地域における公益的な取組」実施状況</p> <p>資料 2 : 泉サポートプロジェクトの取組</p> <p>資料 3 : 社会福祉法人・施設の地域貢献活動推進に向けた支援機関の役割</p>